おにぎり通信

2022年11月26日（土曜）　四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

風邪やインフルエンザが流行る季節になってきました。新型コロナの感染対策のおかげで、寒くなっても風邪やインフルエンザが流行らない年が続きましたが、この冬は少し様子が違うみたいです。人々の行動が元に戻ってきていることに加えて、コロナに気を付けて生活するうちに、いろんなウィルスに触れる機会が減ったため、我々の免疫がどうやら弱くなってしまっているようです。今まで以上に風邪を引きやすい身体になっているかもしれませんので、手洗いなどの予防をしっかりすることが大切です。

◇福祉行動報告

Ａさん（７０代）　生活保護申請のため、大田区福祉事務所に行き、当面の生活拠点として、大田区内にある簡易宿泊所に入居しました。

福祉行動を希望の方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・・中央区築地1-1-1　中央区役所4階

千代田区福祉事務所・・千代田区九段南1-2-1　千代田区役所3階

おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ

おにぎりは、お１人１個で、その日のうちに召し上り下さい

四ツ谷おにぎり仲間　千代田区麹町6-5-1　聖イグナチオ教会

連絡先　080-7967-8672（連絡可能時間　毎週土曜日午後３時～６時）

【マイホーム山谷】

「マイホーム山谷」という本が、小学館ノンフィクション大賞を受賞しました。山谷で2002年に民間ホスピス「きぼうのいえ」を建てた山本さん夫妻を取り上げた本です。夫妻は、山田洋次監督の映画「おとうと」のモデルとなり、NHKの番組で特集されるなど、「理想のケア」を実現した人物として注目を集めました。ところが、現在の「きぼうのいえ」に山本夫妻はいません。夫は、施設長を辞めさせられ、介護と生活保護を受けながら山谷で暮らします。妻は、NHK番組が放送された翌日に施設を出て、行方をくらませました。

「きぼうのいえ」は、インドにあるマザー・テレサの「死を待つ人々の家」をイメージした看取りの施設として作られました。路上生活のまま歳をとった人や、家族と縁が切れて頼る者がいない人、そのほか何らかの理由で生活が立ち行かなくなった高齢者や重病人を積極的に受け入れます。外出の付き添いやお金の管理など、生活の細かいところまで気を配り、最期の時を迎えるまでスタッフたちが家族のように入居者に寄り添う施設です。いつも誰かが居て、何かと助けてくれるドヤ、と言ったほうが分かりやすいかも知れません。

山谷は、今や「労働者の街」ではなく、密集するドヤやアパートを基にした「福祉の街」です。少しくらい自分の時間を削ってでも困っている人に寄り添おうという想いを持った人間が多く集まってきて、生活保護や医療・介護保険などの公的なサービスの届かないところをボランティア団体がつながって補い、住む人たちをみんなで支える仕組みができあがっています。山本夫妻は、こうした山谷の仕組みができ上がるのに身も心も捧げましたが、捧げ過ぎて力尽きてしまったのかも知れません。しかし、立ち上げた「きぼうのいえ」は、ちゃんと受け継がれ、生活に困っている人たちを受け入れ続けています。